

11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		スーパー（企画担当）	・来客数も安定してきており、前年同月を上回る月が連続している。
		スーパー（財務担当）	・既存店ベースで何とか100.6%の推移であり、回復基調であるのでやや伸びていく。
		衣料品専門店（経営者）	・少しずつではあるが、客数、販売量ともに上がってきている。これからの時期は、単価も上がっていくので、良くなる。
	変わらない	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・地元客の入客数や平均単価は平行状態が続いているが、例年に比べて平日の観光客の来店がかなり増えてきている。
		通信会社（店長）	・客の購入単価が高くなってきている。
		百貨店（担当者）	・夏の暑さにより夏物処分が好調であるが、初秋物等の入荷状況は依然として芳しくない。今後は秋物商品の入荷に左右されると判断するが、客動向としては好調であり、以前のような消費の停滞感は大分払拭されてきていることから、現在の客動向は継続する。
		スーパー（経営者）	・まず、8月は旧盆という事もあり、中元セール等でそれなりの売上はある。しかし前年度の比較で見ると、旧盆の時期のずれもあり、9月まで、通期での比較は難しい。ただ、客単価等も依然厳しい状況にあるので、しばらくはこのような状況が続く。
		コンビニ（エリア担当）	・自社、競合他社、それぞれの既存店の近くでの出店が多くなっており、今までのような伸びはあまり期待できない。
		コンビニ（経営者）	・オープンしたスーパーとのすみ分けができるか否かにかかっている。これまでの経験では3、4か月で元の状態に戻ったのだが、どうなるか分からない。
		乗用車販売店（経理担当）	・公共工事等の減少傾向の中では、あまり期待できない。
		観光名所（職員）	・沖縄ブームは依然として続いている。また、愛知万博は9月下旬には終了する。沖縄観光にとって悪くなる要素は見当たらず、これからも順調に推移する。
		住宅販売会社（従業員）	・マイホームを取得するメリットが薄れている。所得税の控除枠の縮小、廃止や金利の上昇基調、住宅取得減税の縮小など、マイホームを取得することで逆に負担感を感じてしまうと考えられる。景気浮揚にとって、現在の一戸建ての着工戸数比率の低下傾向は大きなマイナス要因である。
		やや悪くなる	一般小売店〔衣料品・雑貨〕（経営者）
コンビニ（エリア担当）	・買上個数が減り続けている。		
その他専門店〔書籍〕（店長）	・株や投資に関する本が前年と比べて多数出版されている。また、それに比例するように売行きも伸びている。株という、多少リスクがつきものの商品に個人資産を振り当てて運用していき、将来税負担が増えたり、年金が縮小されても生活にゆとりを持てる様個人個人が考え始めている。貧富の格差が次第に出てくる。		
観光型ホテル（商品企画担当）	・昨年の同時期に比べて団体の受注が少なく、前年を割る見込である。		
悪くなる	ゴルフ場（経営者）	・2、3か月前の売上はやや好調に推移したものの、その反動が予期される。事前に営業面の努力が必要になってくる。	
	商店街（代表者）	・中心商店街エリアは現在、観光客の来客が多い。それに伴い、商店街もだんだん観光関連の店が多くなり、客割れを起している。従来の買い回り品のお店は減りつつあり、中心商店街で買っていた客は、郊外に散っている状況である。一部郊外店は良いが、中心部の店は観光関連を除いて、危機的状況にある。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	輸送業（総務担当）	・新規の受注が何件もあり、物流が増加する。荷主側での経営改善の為、アウトソーシングの契約も増えている。
	変わらない	不動産業（支店長）	・総選挙後の動きを見なければ何とも言えない。

		不動産業（従業員）	・今月は選挙に伴う契約があるが、来年1月にも市町村合併のための選挙があり、同じような動きが予想される。
	やや悪くなる	建設業（経営者）	・今月の引き合い、問い合わせ件数の動きがやや鈍い。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（経営者）	・今の状況から見て、現在の派遣依頼の状況はしばらく続く。ただ、相変わらず人材のミスマッチも多く、また紹介予定派遣だと派遣会社の収益は期間限定であるため、数字的に上がるかは微妙なところである。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人数が増えてくる傾向にあり、見通しが明るい。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・学校に届く求人以外にも、業者による合同企業セミナーの求人を含め、求人数が増加している。今後見込める求人を含めると、増加傾向にある。
		学校〔大学〕（就職担当）	・県内大手の採用が終わり、中小企業の採用が始まっている。採用者数は今後増えてくる。特にIT関連は需要がますます増えてくる。反面、県内の建設業の不景気と原油高が相変わらず続いているので、懸念は残る。
変わらない	職業安定所（職員）	・前年同月と比較すると、7月の新規求職申込件数は6.2%、紹介件数は13.9%、月間有効求職者は7.4%、就職件数は4.8%それぞれ増加し、県外就職者は12.6%減少している。中途採用だと賃金等の条件が低くなる傾向があり、再就職を困難にしている。主婦層を中心としたパート求職者と雇用保険受給者は減少している。なお、県外希望者は増加している。改善の動きはみられるが、求職求人も増加傾向で推移していき、雇用情勢は依然厳しい状況が続く。	
やや悪くなる			
悪くなる	-	-	